

伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究 (①修03-08-3/5)

目 的

本プロジェクトでは文化財修復材料について、製造法・適用法などを調査研究し、適正な文化財修復を行うための基礎を築くことを目的とする。伝統的修復材料に関しては、製法・使用技法・材料物性などを研究することにより伝統技術を記録し、その有効性を科学的に検証する。一方、近年文化財修復に使用されるようになった合成樹脂に関して、その使用事例を再確認する。さらに、これらの調査や研究から得られた結果をもとに、現在の環境も踏まえ、より文化財修復に適した技術や材料を開発することを目的とする。

概 要

伝統的修復材料と技術に関して、調査研究を行った。具体的には、昨年度から行っている建造物などに使用する漆塗装の耐候性向上に向けた基礎実験を継続した。収集された実験データは整理と検討を行った。漆塗料および漆工品生産に関する伝統技術の調査では、岩手県二戸市浄法寺地区周辺にわずかに残された漆室の漆工材料と用具（民俗資料）の整理を実施するとともに、歴史的な漆塗料の分析調査を行った。また、紙に関しては、収集した試料の繊維組成分析を行い、適切な紙を選ぶための基礎データを集積するとともに、データベース化も継続して行った。また、本研究所が携わった修復事業のうち、研究所が所蔵する資料を分類整理し、目録作成を継続した。ネガフィルムなどの資料に関しては、デジタルデータ化も継続して進めた。

さらに、「漆を通じてみた日本と海外との交流—漆文化財の調査と保存修復の現状と課題—」というテーマで、第2回伝統的修復材料および合成樹脂に関する研究会を開催した。

日 時：2008（平成20）年11月27日 13：20～17：40

会 場：東京文化財研究所地階セミナー室

講 演：北野信彦（東京文化財研究所）、日高薫（国立歴史民俗博物館）、宮腰哲雄（明治大学理工学部）、山下好彦（漆工修復技術者）

研究会の開催 1件

- ・第2回伝統的修復材料および合成樹脂に関する研究会「漆を通じてみた日本と海外との交流—漆文化財の調査と保存修復の現状と課題—」 東京文化財研究所 08.11.27

学術雑誌等への掲載論文数 1件

- ・北野信彦「桃山文化期における輸入漆塗料の流通と使用に関する調査（Ⅱ）」『保存科学』48 pp.133-146 09.3

学会、研究会等での発表件数 2件

- ・北野信彦、窪寺茂「明治期修理における建築塗装の一方法」文化財保存修復学会第30回記念大会 太宰府市中央公民館 08.5.17
- ・北野信彦「輸入漆の流通と使用」第2回伝統的修復材料および合成樹脂に関する研究会「漆を通じてみた日本と海外との交流—漆文化財の調査と保存修復の現状と課題—」 東京文化財研究所 08.11.27

報告書の刊行 1件

- ・『伝統的修復材料および合成樹脂に関する調査研究報告書 2008年度』 東京文化財研究所 123p 09.3

研究組織

○川野邊渉、北野信彦、早川典子、加藤雅人、坪倉早智子、山口加奈子*（以上、保存修復科学センター）、飯島満、菊池理予（以上、無形文化遺産部）、館川修（客員研究員）

*平成20年10月1日採用